

(様式1) 実践事例

学校名	桑折町立醸芳小学校	校長名	伊藤 好幸		
住所	伊達郡桑折町字桑島三2-8	児童生徒数	284	学級数	13
TEL	024-582-2014	ホームページアドレス	<a href="http://www.kori.gr.fks.ed.jp/">http://www.kori.gr.fks.ed.jp/</a>		

## 少人数指導による学習基盤づくり ～入学期における指導～

### 1 少人数指導の計画等

- (1) 児童一人一人に目が行き届き、きめ細かな指導ができる少人数指導を生かし、1学年として、望ましい学習の基盤づくりを目指す。
- (2) 学習の基盤である学級・学習集団づくりを大切にし、小学校入学期における指導を確実に行う。
- (3) 全職員で課題を共有し、少人数指導を行うための校内体制を整備する。

### 2 実践の概要

小学校入学期（第1学年）は、学習の基盤づくりが大切である。規範意識と好ましい人間関係を構築し、入学期における望ましい学習習慣・生活習慣を身に付けさせることが、このあとの校内生活や学習に大きく影響してくる。第1学年の第1学期に、いっそう一人一人のよさや特性に応じた指導ができるように、次のような方法で、第1学年の少人数指導を展開した。

- 第1学年42名（2学級）の児童を3グループ（1グループ約12～16名）に編成し、算数科において少人数指導を行う。
- 担任以外に管理職や担任外の教員も入り、チーム・ティーチングを行う。
- 桑折町「つなぐ教育」推進事業の取組の一つである、学習の手引き「学びのスタンダード」を活用し、学習のきまりを確実に身に付けさせる。

#### (1) 校内指導体制の整備

3グループともチーム・ティーチングの指導体制をとるため、授業に入る担任外の教師も担任と一緒に児童の実態について情報交換し、毎時間の授業の進め方、授業のポイントを明確にしながら教材研究を進めた。グループは等質とし、個別指導を要する児童が偏らないようにした。また、分科をもつ担任外の教師が授業に入りやすくなるため、さらに落ち着いた状態で一日のスタートを切れるように、授業は1校時に設定した。



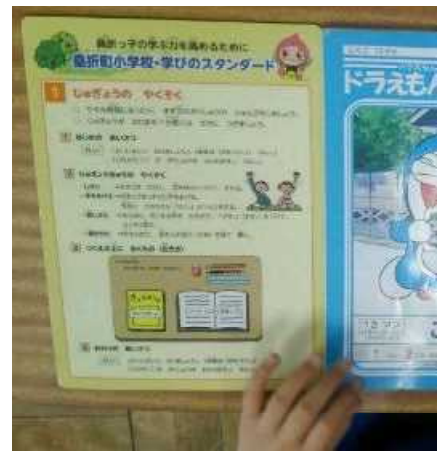
放課後には、短い時間であるが今日の授業の反省会をもつようにし、次時の授業へつながるように心がけた。

## (2) 学習習慣の確立

桑折町「つなぐ教育」推進事業の取り組み「学びのスタンダード」とは、学習用具、授業の約束、ノートの手取り方についての約束事を、A4判両面で作成したもので、下敷き代わりに使用できるため、いつでも約束事の確認ができる。

第1学年には、教科書や鉛筆等の置き方、授業のあいさつ、姿勢や聞き方・話し方等をしっかり身につけさせなければならない。そこで、この「学びのスタンダード」を使って、毎時間学習の準備や話の聞き方などを指導しながら授業を進めた。

少人数指導によって、一人一人に目が届きやすく、活動等に遅れがある子にも声をかけやすくなる。そのため、児童が取りかかりや準備に遅れることなく、一斉に活動に入ることができるようになってきた。



## (3) 学習意欲の向上

少人数指導を行うことは、児童にとって答えを言ったり、黒板の前で発表したりする機会が多くなる。それだけ、先生やみんなから称賛されたり、自分の考えに自信をもったりできる機会も増えることにつながる。児童は、おはじきなどを使いながら一生懸命に考え、それを意欲的に発表していた。そして、正解を出した喜びを味わっていた。指導者が、タイミングを逃さずに誉めることで、児童は、ますます学習意欲を高めていた。



## 3 実践の成果と課題

- 2学級を3つに分けた少人数指導を行ったため、一人一人に目が届きやすくなり、個々の実態に応じた指導を行うことができた。特に「学びのスタンダード」の活用により、学習の準備がしっかりできるようになり、取りかかりが遅れる児童がなくなってきた。また、算数科以外の授業でも、それが活かされるようになってきた。
- とよりの学級の児童と一緒に学習することも刺激になり、進んで発表したり、黒板の前で説明したりできる児童が増えた。少人数のため、わからない問題があっても、チーム・ティーチングで指導していることもあり、指導者がヒントを与えたり、励ましたりすることが容易にできるため、児童は意欲的に学習に取り組むことができた。
- 今回は、算数科「のこりはいくつ ちがいはいくつ」の単元のみでの指導であった。まずは学期に1回ということで行ったが、今後は別の単元でも実施することを検討している。小学校生活に慣れる2学期にも同様の取組を行い、どの児童にもわかる楽しさやできる喜びを味わわせていきたい。